

V201a TMT 計画 – 進捗報告

白田知史, 青木和光, 伊王野大介, 倉崎高明, 嘉数悠子, 山下卓也, 杉本正宏, 鈴木竜二, 藤縄俊之, 能丸淳一, 関口和寛, 吉田道利, 常田佐久 他 (国立天文台), H. Yang, L. Simard, E. Reddy, T. Soifer, S. Xue, B. Kirshner, F. Liu 他 (TMT 国際天文台 (TIO))

TMT は日本が国際協力で実現を目指している次世代の超大型 30m 光学赤外線望遠鏡である。TIO は、2019 年以後マウナケアでの建設工事を進められていないが、状況の改善に向けてハワイ現地での活動を進めている。これまで TMT に批判的だった人たちを含め 300 人以上の地元関係者との直接対話を進めると共に、嘉数特任専門員を中心に、地元住民のニーズに沿った教育支援や職業訓練プログラム等の活動を行なっている。このプログラムは米国国立科学財団 (NSF) への提案書にまとめられ、NSF から高い関心があるだけでなく、ハワイ先住民からも感謝の声が聞こえる。このようにハワイでの信頼関係の醸成が進んでいる。これまで先住民の声が反映されないと批判があったマウナケア管理については、ハワイ州新法によって新たな管理組織が設立され、9 月には先住民の長老を含む 11 名のメンバーが発表され、11 月に第 1 回の会合が開催された。TMT の建設・運用には、地元信頼されるマウナケア管理が必須であるため、こうした動きは大きな一歩と言える。米国 Decadal Survey 2020 において、地上望遠鏡計画として TMT を含む US-ELT プログラムが最優先計画として位置づけられたことを受け、NSF は 11 月から基本設計審査 PDR を開始した。12 月と 1 月に審査会がパサデナで行なわれる。TIO および参加機関における活動は財政的に抑制している状況ではあるが、全体計画の工程上必須の作業が各国で進められている。国立天文台でも日本担当部分が全体計画の遅延を引き起こさないために、製造再開後に必須の準備作業や設計・開発作業を進めている。本講演では TMT 計画の現状と今後の展望について報告する。